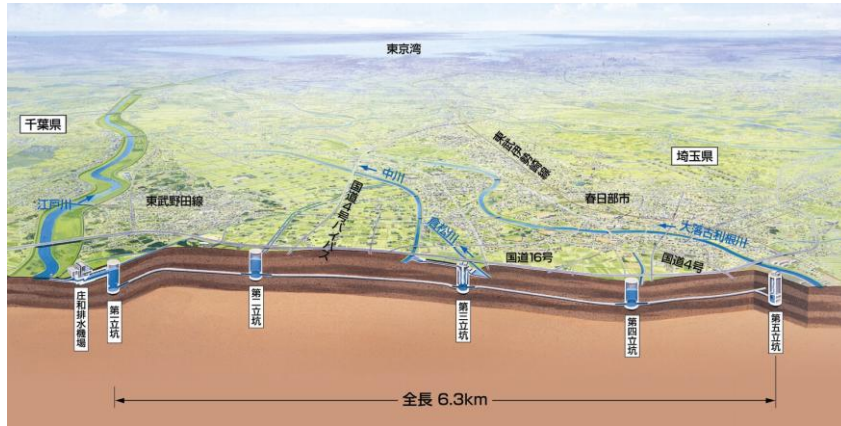


## 水害に悩まされていた埼玉県東部

東京のベッドタウン埼玉県東部。かつては東京の北部に広がる穀倉地帯で、水田や畑などが広がっていた。大雨で川から溢れた水は田や畑に浸透し蓄えられていたが、急速に進んだ宅地開発により土地の保水力は低下。大雨で溢れた水はそのまま街を襲い、さらに下流の地域にも被害を及ぼすようになった。平成12年7月の台風3号では中川・綾瀬川流域（春日部市、幸手市、杉戸町、宮代町、白岡市、松伏町、五霞町）で48時間の平均雨量159.5mmを観測。被害は床上浸水147戸、床下浸水679戸、浸水家屋248戸に及んだ。

## 330万人が暮らすこの地を水害から守る

平成5年3月に首都圏外郭放水路の工事が始まった。この放水路は河川から水を取り込む5つの流入施設、国道16号の地下50mを通る地下水路、そして流れてきた水を江戸川に流すための排水機場から構成されている。これらを備えた地下の人工河川は世界にも類例がなく、首都圏外郭放水路は世界最大規模を誇る地下河川である。



首都圏外郭放水路の全容（提供：国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所首都圏外郭放水路管理支所）

## 大きな役割を果たしている首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、平成14年6月に第3立坑から庄和排水機場までのあいだ3.3kmから運用を開始した。運用開始以降、平成24年10月末までの稼働回数は合計73回、年平均で約67回。調節水量は合計で12,139万立方メートル、年平均約1,103万立方メートルとなっている。放水路への流入は2月、3月を除き毎月あり、管理を担当している国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所では、いつでも稼働できるように万全の体制をとっている。

## 首都圏外郭放水路を訪ねる

外郭放水路の見学施設、埼玉県春日部市にある「地底探検ミュージアム『龍Q館』」を訪ねた施設協の一行は、同放水路の施設のひとつ、調圧水槽の中に入った。116段あまりの階段の先に広がった光景は文字通り「地下神殿」。立ち並ぶ高さ500トンの柱、高い天井、大きく口を開ける第1立坑。驚きつつ周囲を見渡すとともに、「水害と戦う」という強い意志を感じた。決して表に出ることはないが、確実に人々の生活を守っている。下水道とは分野を異にする重要な社会インフラに接し、参加者はそれぞれに下水道にかかわっている事の意味を再確認したに違いない。



外郭放水路について説明を受け調圧水槽の中へ。水槽では空間のあまりの大きさに驚かすにはられない